

パッション

文化情報誌

第45号

2011

誌名の『パッション』は燃えるような“情熱”の意味です。

「歴史ゼミナール四日市」25年

〔特集〕文化を繋ぐ

輝くひと 画廊を開く・夢を拓く 山口恵子さん

ネイチャーフォト(レジタル)市民公募展／第61回市民芸術祭始まる



N.I

中央緑地、階段を上ると陸上競技場が待つ

元気な四日市が好き!!



四日市市文化協会

<http://www.yokkaichishibunkakyoukai.com>

Eメール ybk-jimu@m2.cty-net.ne.jp

目次

「歴史ゼミナール四日市」25年記念シンポ……………久保村秀高・・・1

特集 「文化を繋ぐ」

① 泗翠庵でのゆかた茶会……………中川多美子・・・2

② バレエ…この奥深い芸術……………石井 亨・・・3

③ 子どもと描く絵画教室……………山口 香魚・・・4

④ 三重岳仁会青年大会……………芝田 尚輝・・・5

賛助会員リレーエッセイ 流水不争先……………水野 幹郎・・・6

第1回 よっかいち歴史浪漫深訪……………北野 保・・・7

パッション広場 短歌 「広告」 ……8

[選評] 大井 力/小林 英/高井睦明 「広告」 ……9

Sparkling Personality 輝くひと

画廊を開く・夢を拓く 山口恵子さん……………西村 邦彦・・・10・11

訪問レポート① 地区サロンコンサート 樋尾正代さん…清水 暁美・・・12

訪問レポート② フラは楽し人生楽し 西村喜代子さん…中西まさ子・・・13

フラッシュ① シンボルマーク創作……………森 次男・・・14

フラッシュ② レジタル公募写真展 山下茂樹さん……………伊藤 洋史・・・15

第61回市民芸術文化祭始まる！

四日市2011アート展の課題……………加藤 武・・・16

日本舞踊まつり……………西川 保歳・・・17

第5回四日市音楽祭……………水谷 達・・・18

第10回記念四日市短詩型文学祭……………西田 青沙・・・18

加盟団体&後援事業・イベント紹介・短信……………19

編集室……………石井 亨・・・20

表紙絵 N.I 市民芸術祭写真 加藤 武

四日市市文化協会に関するお問い合わせや、入会のお申し込みなどは、下記へご連絡ください。

〒510-0057 四日市市昌栄町21-10

TEL・FAX 059-351-3729

開局時間…火曜日から金曜日までの午後1時～5時(除く祝祭日)

「パッション」第45号をお届けします。訂正のお願いです。関係各位にお詫びして、ここに訂正します。

- ① 2ページ→見出し 洒翠庵でのゆかた茶会 遠州流 中川英津子(「多美子」は誤り)
- ② 5ページ→見出し 三重岳人仁会青少年大会(「青年大会」は誤り)
- ③ 9ページ→パッション広場の文中 選評 コスモス 高井睦朗(睦「郎」は誤り)
- ④ 同ページ→パッション広場の きらら短歌会 鈴木利子作品中 美濃は雪と伝えし妹かたき胡桃・・・
(美濃は雪と伝えし「い」妹かたき胡桃・・・は誤り)
- ⑤ 13ページ→2段目後ろから8行目 その時から15年間、・・・(「5」年間は誤り)と後ろから4
行目 和田多先生・・・和田先生は誤り
- ⑥ 20ページ→平成23年度四日市市文化協会役員の中 副理事長(・・・・・・)水谷 達の次の行に
入れる 会計責任者 平野恵美子
- ⑦ 同ページ→ページ最後の四角の中 編集 石井 亨の次に石塚 真木を入れる 同ページ→発行所に
住所 四日市市昌栄町(「庄」栄町は誤り)

2011年8月20日

四日市市文化協会 広報部

責任者 西村邦彦

「久留倍遺跡」古代史のロマン

「歴史ゼミナール四日市」創立25周年シンポジウム

代表 久保村秀高



となったことについては皆さんご存知のところであろうし、スタッフの氏に対するこだわりの正しさがご理解戴けよう。

「歴史ゼミナール四日市」は今年25周年を迎えるが、一昨年、創設23年目に20周年を記念するシンポジウムを開催した。遅れたには理由が複数あるが、第一は出演者にあった。このシンポジウムに対する会の意気込みは大であり、結果として多忙な方々ばかりを出演者を選んでしまったのである。特に、コミュニケーション教育の必要性を説き、当時、大阪大学の新プロジェクトの中心にいた平田オリザ氏は、年1日しか土・日の空気が無いという超過密スケジュール。日程調整には大いに苦労するところとなった。現在、氏が内閣参与

となったことについては皆さんご存知のところであろうし、スタッフの氏に対するこだわりの正しさがご理解戴けよう。さて、現在では、この会の草創期を知る人も既に数少なくなつたので、ここで一言触れておくこととしよう。発想の原点は、当時四日市においては、なかなか魅力ある講師の講座はなく、僅かに郷土的なものに限定されていた。真に一流の講師陣の講座を聴きたいと思うと、大都市、東京・大阪、近くて名古屋までいく必要があつた。そこで、思いを同じくする同志、北野保氏らが語り合い、①講師を自選し、②広く市民の参加を呼びかけ、③行政や関係団体の支援は受けられないこと、を基本に、さらに文化事業に理解の深かつた故中島社長の賛同を得て(有)東海出版に事務局を置くことと

した。現在は娘さんの稗田多美子さんが中島社長の遺志を引き継がれ、当会を支えて戴いており、本当に深謝するばかりである。

晴れて船出した初回講座は、当時奈良国立文化財研究所飛鳥資料館学芸室長であつた猪熊兼勝氏による「飛鳥と韓国・日韓古代文化交流」という内容で文化会館を会場に開催した。四日市にあつて最先端の知識に触れた経験は、実に新鮮な感動として今に記憶しており、この時の経験が現在に至る原動力となつていると感じている。その後、新たな四日市の文化の中心となるべく開館した博物館の講座室に場所を移して現在まで続けてきている。

さて、創設25周年、現在「久留倍遺跡」の実態に迫るシンポジウムを準備中である。詳細についてはこれからだが、11月20日(日)、都ホテル4F伊

勢の間での開催を計画している。コーディネートとして東京大学の佐藤信氏に了解を戴いており、パネリストには皇學館大学の岡田登氏、四日市市立博物館の堀越光信氏にお願いしている。このシンポジウムを通して、久留倍遺跡が真に市民の誇るべき歴史遺産・文化資産となるよう考察を深めて戴きたいと考えているとともに、今後ともこの地域の歴史や文化・美術、自然科学や環境などの世界に向けた情報等々、皆さんの興味の向かうところに賛助し続けていきたいと考えている。

なお、20周年記念行事に引き続き、今回の25周年のシンポジウムにも、ご協力をご快諾戴いたマツオカ建機社長、松岡美江子さんには心よりお礼を申し上げるとともに、今後とも本市の文化を支える大きな力としてご助力戴けるようお願い申し上げます。次第です。

【今年度の第33期講座】四日市市立博物館講座室にて開催中。

いずれも14時開講「有料」 お問い合わせ 059-345-3410

5月28日(土) 7月23日(土) 9月24日(土) 11月27日(土)

平成24年 1月28日(土) 3月24日(土)

詳細は <http://d.hatena.ne.jp/rekizemi-yokkaichi/>

泗翠庵でのゆかた茶会

遠州流 中川多美子

近頃よく幼い頃を思い出す。母に着物を着せてもらって初詣に行ったこと。祖母と母と三人で雛人形を飾りつけたこと。菖蒲湯に父と一緒にはいったこと。私が幼かった時代は、季節の変化に敏感で、父母や祖母と一緒に楽しめる諸行事が当たり前のように私の周りにあふれていた。そんな風景が少なくなつたと感じるのは私だけであろうか。

数年前から、私は幼稚園や小学校で茶道体験教室を開催している。子どもたちに行事の話をする時、純粋な瞳が輝きます。季節の花を生けると、その花の名前を興味深く覚えてくれる。そして背筋を伸ばして正座し、お抹茶を美味し

いと味わってくれる。「お先に」「結構です」という言葉の中に思いやりの心を感じてくれる。彼らの中には、日本人としての



DNAが間違いなく受け繋がれている。グローバル化が進む今日、多くの子どもたちが世界へと飛び立って行くであろう。そのときに、日本人であることを誇りに思い、日本の文化を積極的に発信して行ってほしい。私達が

自然に受け継いできた伝統文化を子どもたちに繋ぐことこそが、われわれ大人の使命なのではないか。茶道を通して、文化を繋ぐお手伝いができればと強く感じている。

ゆかた茶会／伝統文化を子どもたちに

日時 平成23年8月20日(土) 10～15時(随時)

場所 四日市市茶室 泗翠庵

会費 600円

小学生以下無料※必ず保護者をご同伴ください
(定員になりしだい締め切ります)

主催 撫子会

茶券のお申し込みお問合わせ

090-2924-9668 (中川)

助成 公益財団法人岡田文化財団、くわしん福祉文化協力基金

後援 四日市市 四日市市教育委員会

菰野町教育委員会 茶道遠州会愛知支部

撫子会

本会は、茶道を通して子供たちへ日本の伝統文化を継承することを、目的とし、礼儀や人を思いやる心、季節を感じる心を育てていくための活動を行っています。

平成20年、遠州流茶道中川宗津社中を母体とし発足しました。幼稚園、小学校での茶道体験講座やクラブ活動を通じて、次世代を担う子供たちが、日本の素晴らしさを感じてくれるよう取り組んでいます。

会員募集

一緒に活動して下さる方を募集しています。ご興味のある方は左記の連絡先までお問い合わせください。090-2924-9668(撫子会 中川)



バレエ …この奥深い芸術

石井アカデミー・ド・バレエ主宰 石井 亨

京都でバレエを教えていた両親が、縁あって四日市に招かれ、教室を根付かせてから半世紀以上が経つ。2003年



石井アカデミー・ド・バレエ創立50周年記念 2003年12月7日 四日市市文化会館 第1ホールにて

んだという喜びとともに、感謝の気持ちでいっぱいである。ところで近年は、いろいろなジャンルの踊りが増えてきた。

には、四日市交響楽団、四日市少年少女合唱団の協力を得て、指揮者には全国で活躍する竹本泰蔵先生を招き「くろみ割り人形全幕」を上演することが出来た。50年以上教室を続けていると、生徒の中には親子2代はもちろん三代にわたって教室に通う方も珍しくない。四日市に根付いた

の活動の場を拡げてもらいたい。

クラシックバレエは、19世紀に完成された技法、振付が今に伝えられているが、現在も多くの指導者、踊り手により新しい技術、身体の使い方がまだまだ研究、開発されている。私たちは、過去の偉業を尊重し継承しつつ、新たなものを取り入れる努力もしなければいけない。クラシックバレエがすべての踊りの基本だと言って、ずっと変わらずに同じ事をくりかえすだけではないのだ。文化の継承ということは、新しいもの、考え方を受け入れる柔軟な姿勢も大切なのだと思う。そして四日市のみならず、日本のバレエの発展に微力でも貢献する熱意を持ち続けたい。最後に。サッカーや野球選手が海外で活躍するように、バレエ界でも外国のバレエ団に所属する日本人が増えてきている。真面目で努力家の日本人は、世界で踊るチャンスがあるのだ。今の若い人達は、可能性のある限り世界に目を向けて

子どもと描く絵画教室

山口 香魚



子どもと共に絵画教室で絵を描き続けて50余年。パッションの編集者から「何故かくも長く続けることができたのか」と問われて、改めてこの50余年を振り返ってみました。思い起こせば、私学の教師として小・中・高校生の図工、美術を担当することになったのが始まりでした。当時、大変張り切って授業に臨んだことを覚えています。なかなか大学で学んだ教育法や教育実習の実践どおりとは行かず、毎日が必死の状態でした。

初めての夏休みに先輩から「夏休みの絵画教室」の手伝いの依頼があり、その現場で、先生方が子供の遊びのような楽しい指導方法を展開されるのを見て、「あっ、これなのだ！絵の上手下手ではないこと」を。自分が小学生の時に先生に褒められたことを思い出し「その時の言葉を思い出しながら楽しく夢を持って描けたこと」を。

小学生を知るには幼児から、幼児を知るには赤ちゃんから。自分は子どもが本当に分かっていなかったと思います。『発育や脳の発達から全てを理解し子どもと共に遊んで楽しむ「描く」「作る」自由な心を育てるのだ』ということを理解し学習す

ることができました。この様なことは誰でも教師一年生が学んでいく過程なのですが、「図工」「美術」は共に「楽しみ」「喜び」「感動」して、初めて心を開き、安心して諸々の美しさ、面白さなどあらゆる感覚を総動員して表現してくれるのが



一番だと思いました。その時、子どもの心と一体化して共に満足、幸せを感じるひと時でした。幼児、小学校低学年の児童は、肌で感じて楽しんで一緒に粘土をさわって、こねて、足で踏んでその冷たさ、やわらかさを知ります。古新聞を破って、ちぎって、その音や面白い形をみつけます。絵具をいろいろ溶かす色水ごっこなど表現の楽しさを味わうことだと思えます。

こんなことはどこの幼稚園や小学生でも楽しんでいることでしょう。小学校高学年、中学生、高校生になればより技法も豊富になり内容も深くなって、大人も顔負けのすごい作品が出きます。また短大の幼児教育、初等教育の絵画制作、図工教育の授業も行いましたが、前述の幼児、小学生を指導する機会がありましたので、参考にでき勉強になりました。日々を楽しく重ねた50余年でした。今も続いています。・・・

三重岳仁会青年大会

副会長 芝田 尚輝



三重岳仁会は、「社団法人」日本詩吟学院 岳風会の認可を受けてから、五十二年になる会員数約五百名の詩吟を愛好する人の団体です。

いろいろな行事は行っておりますが、その中でも主な行事はまず六地区に分かれて毎年会員が主となって、一吟づつ和気あいあいと和やかに、吟の発表会をしています。

また本部行事としては、競吟大会が有ります。吟向上を目指して頑張っている人達は、ラン

クに分かれて競い合う大会です。

出吟者はこのためと言っていいほど、吟の勉強をします。

そして青年大会は、子供たちの大会です。一吟あり、構成吟有りですが、初めから終わりまで子供達ですべて行い、大人は少しサポートをする程度で、立派に運営してくれれます。頼もしく感じます。

また、楽しみを一番にした、婦人部主催の吟行旅行と云うのがあり、これは本当に楽しい一日旅行です。婦人部は二年に一度、吟道大会も催されます。

この他にも多くの行事が有

事務局

〒五二一-1111

四日市市山田町二四五二の二

☎〇五九-三三八-二二七四

会長 山村岳翔

りますが、何といつても趣味の事、楽しみながら、和気あいあいと行っております。支部によっては、地域の敬老会や文化祭、病院施設の慰問等に出かけたりして、充実した詩吟生活を楽しんでいます。おおきな口をあいて、おおきな声を出して爽快！な気分を皆さんも味わいませんか。これからの人生も楽しくなりますよ。

今からでも遅く有りません。ぜひ楽しみながら一緒にしてみませんか。お待ちしております。



平成 22 年 8 月 22 日 (日) 亀山青少年研修センター

流水不爭先

(流水は先を争わず)

元市議会議員

水野幹郎

賛助会員

リレーエッセイ

市場原理主義という言葉が日本社会に浸透して10年が経つ。競争原理の導入で経済を活性化させる等々、専門家は日本の将来がバラ色であるかのように語ったが、現実には格差の拡大やその固定化など、いろいろなところで社会の歪みが生まれてしまった。

さらに悪いことに、教育や文化など必ずしも競争に適さないような部分にまで、競争原理が持ち込まれてしまつてはいないだろうか。

私自身は、盆栽をもう30年も続けているが、盆栽には「あと10年もすればモノになる」といっ

た評価がある。近視眼的に競争をあおる世界ではなく、こうした長期的な成長を目指す世界こそが、文化の神髄ではなからうか。

また、芸道・茶道・華道など日本人は、武芸だけでなく文化にもそれぞれの分野の「道」を極めることを好んできた。

他者と競うのではなく、自らが「道」のどこにいるのかを求める姿勢が日本文化を世界から賞賛される地位にまで昇華させてきたのである。

中国の古典に由来するが「流水不爭先（流水は先を争わず）」という言葉がある。溪流を流れる水は、先を争う訳ではなく、時にゆったりと岸边を洗い、時に落ち葉とともに急流に身を委ねる。行きつく先はどの水も、大海である。

私達も競争に背を向け、ゆったりとした姿勢で、文化爛熟の大海へと流れて行きたいものである。

(アイウエオ順に執筆をお願いします)



石碑「五箇条の御誓文」

日本考古学協会会員 北野 保



御誓文」で、その原型となったのが福井藩士由利公正（三岡八郎）の作成した「議事之体大意」であると言われている。

「まちなかのオアシス」諏訪公園に、写真のような五箇条の御誓文を刻む「誓上御柱」と称した石碑がみられる。

このほど、四日市商工会議所広報『商工春秋』の連載（60話）を集録した『よっかいち歴史浪漫紀行 時代を生きた群像の軌跡』（A5判・136ページ）を上梓し、現在、発行元の四日市商工会議所で頒布している。本連載は、その姉妹編とも言うべきもので、引き続き四日市の「近・現代史」に焦点をあてた史話を記したい。

慶応四年（明治元年）三月十四日、明治新政府は五カ条からなる国家の基本方針を京都御所の紫宸殿において公布した。これが世に言う「五箇条の

五角形の碑面には、①「廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ」（広く会議を開設し、何に於いても公の議論によって決めること）、②「上下心ヲ一ニシテ盛ニ経論ヲ行フヘシ」（上に立つ者も下に立つ者も心を一つに合わせて国のため、活動に励むこと）、③「官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス」（官吏も武士も庶民もみな一つとなって、それぞれの志を遂

げることができるようにして、国民が失望したりやる気を失うことがないようにしなければならぬ）、④「舊来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ」（古くからの仕来りに囚われず、世界に通ずる普遍的な道理に基づいて行動して行こう）、⑤「智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ」（知識を広く海外に求めて、大いに日本という国を発展させるべきである）と「公爵一條實孝書」を刻む。

そして、台座には①「彌榮」、②「天晴」、③「あな面白」、昭和九年三月吉日」、④「あな手押し 村山清八謹建之」とある。

『旧四日市を語る 第三集』（平成四年一月発行）によると、この石碑は台座の碑文にあるように、村山清八氏の寄付によって昭



和九年四月八日に竣工式が執り行なわれ、市民に親しまれた「市民壇」とともに設置をみたもので、その工費は約八千円であったと言われている。

本来の設置場所は、国登録有形文化財の旧四日市市立図書館（現在のすわ公園交流館）の西側で、当初は市民壇に隣接してあったという。

なお、村山清八氏は伊勢市（旧宇治山田市）出身で、村山石炭株の代表を務め、昭和七年十月十一日〜同十一年十月十日までの四年間、四日市市議会議員の職を兼ねた実業家である。

【短歌】

選評

新アララギ

大井

力

日され限きて

歌授からぬ苜ちちに

畑へ逃れて草の芽拾ふ

長女より娘を嫁かせる日の思ひ

今分り来しと電話掛けきぬ

四日市短歌会

矢守多嘉子

(評)

娘を嫁がせる日の思いを親に告げて親の思いがようやく分った。親子の情愛の機微がよく出ている。

雨あとを芽ぶきしるけき樹々に

日が射してそれぞれ滴をやどす

四日市短歌会

柳 三重子

(評)

何でもない樹々の有様であるが、よく凝視され見過してしまふようなことを発見している。過ぎゆく時の凝視でもある。

震災後自粛のつづき公園に

明かりなき夜を桜咲き満つ

久波奈短歌会

伊藤 玲子

選評

国民文学

小林

英

(評)

この作者の心の捨て所は畑なのであろう。歌が授りものと感じている作者の心根がいい。

(評)

三月十一日の大災害以来、自粛と節電の意味で公園も暗くなった。それを肯定しながらも闇にうかぶ桜の花を悼む作者。

清水会計事務所

税理士 清水 常雄
税理士 清水 豪

〒510-0095 三重県四日市市元新町3番10号
TEL (059) 351-5286 (代表)
FAX (059) 351-5297
E-mail : shimizu-kaikei@nifty.com

ペットボトルを並べ戯るるボーリレグ
競技となれば老いら奮起す

あかね短歌会 都梅 照代

(評) のどかで和やかな風景が目にかぶ。
しかし競技となると一同真剣な表情
で激励し合ったりする。結句が微笑
ましい。

避難所より卒業式に出てゆく
子らの写真を思はず撫でぬ

羽津野短歌会 高橋美智子

(評) 下の句は自分の行動をそのまま表現
したが、真実心の表われであるから
稚拙のようであつてもこれでよいと
思う。

選評 コスモス 高井 睦 明

夢に来て何を告げしか亡き母は
うすき背中を見せて去りたり

きらら短歌会 中山トシ子

(評) 夢の記憶。母の告げた言葉はさだか

でないが、その背の寂寥だけが記憶
に残った。「うすき」という具体が
効いている。

夏の空映すプールに風立ちて
水面に生るる大万華鏡

きらら短歌会 形岡 トミ

(評) 開門前の屋外プールの景。突然、無
数のさざ波が立ち、水面に光と色が
散乱。作者はそれを巨大な万華鏡と
見たてた。

美濃は雪と伝へしい妹かたき胡桃
割るがに夫の瘻の転移告ぐ

きらら短歌会 鈴木 利子

(評) 「かたき胡桃割るがに」という比喩
が妹の衝撃的な告白をよく表し、一
方、破調が一首の重さをしつかりと
支えている。

いま将棋 shogi が面白い!

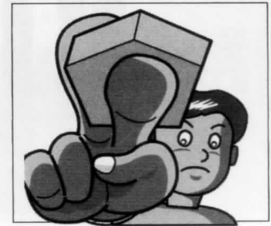
...<http://www.amaren.com/>

強さを数字で表記 [当会独自のレーティング方式] でめきめき上達する

... 会員募集中今すぐ入会 3000円/年間

○ 伝統文化の一つ将棋で楽しみたい人 [会] のご相談にお答えします。
当会は将棋の分野での地域NPOをめざしています。

事務局 日本アマチュア将棋連盟東海ブロックよっかいち
〒510-0085 四日市市諏訪町7-17 (四日市市役所北となり)
☎・ファックス 059-354-0625





画廊を開く・夢拓く

ギャラリー慧 山口恵子さん

もの心ついた頃から習い事をするのが大好きな私でした。

6歳6月から日本舞踊に始まり、ピアノ、絵画、そろばん、お習字、英会話、学習塾・・・不思議と、どの時間も嫌だとかさぼりたいと思つたことは一度もなかった。

どうも母親は、私を宝塚歌劇団に入団させたかつたみたいでした。小6の時には、名古屋の児童劇団のオーディションを受け、合格したものの、親の付添いができないという理由であつさり諦めたらしい、本人の意向は無視で・・・。

今となつてはそのどれもが大成せず、しかしパーツとしては非常に役立つことが多かつたように思う。

時間が持て始めた頃でした・・・その糸口が見えたのが今から5年前。

30年前に嫁いだ稼業を急に廃業すると言ひ出した主人にびっくりしたものの、この機を逃すことはない、とばかりに、国内外旅行、行きたかつた美術館や絵画展、観劇や音楽会に足を運んだ。趣味の絵画や音楽にも時間ができた。

モヤモヤしていた胸のつかえが少しずつ取れ始めたのは、ある一軒の建物の出現でした。

それは諏訪新道という四日市の中心にある商店街の中、打ちっぱなしのコンクリート3階建て、しかも綺麗に使用して、あるがままの姿。

そうだ、これだったんだ！ と私の体が揺れた。

今までの私の集大成としてすべてのパーツを活躍できるのは画廊

五十路を迎える頃、いつたい私は何がしたいのだろう？と悶々たる思いが頭から離れることがなかつた。子育てにも手が離れ、自分

の開業だ！

とはいえ、この道には何も知識がない私、この無謀な思いをどうしようか？

絵画の世界もカルチャーセンターの延長で、絵の知識は初心者そのものでした。そんな私に画廊ができるだろうか？
ところが、すぐさま、凄い理解



鈴木幸永(左端)展にて

3/29 ~ 4/10	もともち芸術予備校作品展	
4/12 ~ 17	伊藤具治	絵画展
4/19 ~ 5/1	鈴木幸永	絵画展
5/3 ~ 8	森 重樹	絵画展
5/10 ~ 22	上田保隆	絵画展
5/24 ~ 6/1	所 伸一	絵画展
6/7 ~ 12	コレクション展	
6/14 ~ 19	日日会 (永都先生)	日本画展
6/21 ~ 7/3	小牧昭夫・郁子 2人展	陶芸・絵画展
7/5 ~ 17	森下加代美	絵画展
7/19 ~ 31	吉岡萬理	陶芸展
8/2 ~ 14	近藤麻美	絵画展
(8/15 ~ 21 夏季休業)		
8/23 ~ 9/4	久永加代子	絵画展
9/6 ~ 18	白井良季・金子 2人展	陶芸展
9/20 ~ 10/2	ギャラリー慧 一周年記念展	
10/4 ~ 16	野田眞章	絵画展
10/18 ~ 30	田島健次	絵画展
11/1 ~ 13	小原喜夫	版画展
11/15 ~ 27	永都康之	日本画展
11/29 ~ 12/11	大平喜久	絵画展
12/13 ~ 25	年末チャリティー作品展	
2012年		
1月 ~ 22	新春作品展	
1/24 ~ 29	増井克利	絵画展
1/31 ~ 2/12	宿野千鶴	陶人形展
2/14 ~ 26	駒木根康彦	陶芸展
2/28 ~ 3/11	女流三人展	絵画展

者、指導者の存在が浮かんだ。中学の恩師・八島正明先生と一水会重鎮・田島健次先生。お二人に胸の内を話すと二つ返事で了解をしていただけだ。この日の感激は今でも嬉しくて忘れられない。

さて、開業当日：雷鳴の轟く土砂降りの雨・・・よりもよってこんな日に！

心配をよそにたくさんの方々にお集まりいただきホッと胸をなでおろした、2010年9月23日でした。

鳴物入りで始まったギャラリー慧(けい)のコンセプトは感性を呼び覚まそう！です。

ちなみに慧(けい)は、仏教で目にする難しい漢字ではありますが、慧眼、慧敏という使い方、物事をよく見る、悟り賢いという意味で、私としてはないものねだりなことです。本物の芸術にむき合えるギャラリーとして、今後は大勢の方々に来て頂き、作品を観賞し、癒しと刺激、そして心和む空間になっていけたらと思っています。また、私自身も、一期一会を大切に、来て頂いた一人ひとりのかわりを大事にイキイキ輝いて生きたいと思っています。

ギャラリー慧は、絵画・陶芸・写真・書・クラフト・デザイン・工芸などの個展・グループ展の展示会場として多目的にご利用可能です。

期間 火曜日～日曜日までの6日間 (1クール) 月曜定休日

■利用時間／午前10時～午後5時、最終日曜日は4時まで

■搬入／日曜日午後5時～又は、火曜日開催時間前まで

■搬出／日曜日午後4時～ (約1時間くらいでお願いします)

料金 1クール 30,000円 展示販売を希望する方については、1作品20%の手数料を頂きます。

お申し込みの際、予約金として20,000円を内金として納入して頂き、残金は会期当日に完納下さい。ご予約を受け付け後、当方の理由による場合を除きキャンセルされる場合は、いかなる理由でも予約金は返金いたしません。又、開催1ヶ月前迄のキャンセルは全額お支払い頂きます。

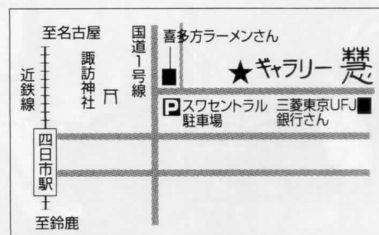
利用権の転貸・譲渡はできません。

設備 受付カウンター、テーブル、会議テーブル、パイプ椅子、スポットライト、給湯など
又、招待状、カタログ、ポスター等は使用者でご手配ください。(業者はご紹介します)
(約100m³、天井2.75m)

ギャラリー慧_{けい}

〒510-0085
四日市市諏訪町13-3.2F
TEL・FAX 059-354-2567
E-mail: gallery-kei@m5.cty-net.ne.jp

ギャラリー慧 検索



訪問レポート①

わがサロンコンサート

県地区サロンコンサート実行委員会 樋尾正代

道と畑の境目がわからない闇の中揺れるライトに導かれてキララ学園体育館に……。一夜の夢のコンサートを送り続けているサークルの熱い思いをお届けします。(レポーター 清水暁美)

今から二十一年前、コンサートとなるものが芽生え、この芽を枯らすことなく大切に育てたいとの思いで実行委員会がスタートしました。田園風景広がるこの県でいろいろなジャンルの本物の音楽を沢山の方に聴いてもらいたいとの一念で今日まで走り続けてきました。「単なる同好会にすぎない。地区として協力する必要がある」といなど心ない言葉を耳にすることもありました。幸いにもすばらしいスタッフに恵まれ、屈することなく活動を続けることができました。入場料は当初から五〇〇円。財源が乏しく演奏者に謝礼金を安くして

いただいたこともたびたびです(要するに、私達の熱き思いをぶつけて値切ったということです)。

振り返ってみるといろいろなことがありましたが、コンサート当日、演奏者、会場の方々、スタッフみんながすばらしい感動を共有できることは最高の喜びで、苦労など吹っ



飛んでしまいます。皆さまから感謝の言葉一つ一つが私達の次の活動への原動力となっています。最後に私達の活動を支えて下さる心優しい方々に心からありがとうございます。

URANUS (天王星) による邦楽の夕べ

日時 十一月十九日(土) 午後七時開演

会場 三重県立特別支援学校 北勢キララ学園体育館

会費 五〇〇円

演奏者 中井智弥(二十五絃箏) 岩田卓也(尺八)

邦楽界の革命児と呼ばれる若きプレイヤーの演奏です。

▼お問い合わせ 〇五九―三三六―〇〇五七(樋尾)

訪問レポート②

フラは楽し 人生楽し

プアマリアあかつき 会主 西村喜代子さん

先生は、待ち合わせの場所に、車で来てくださいました。声の澄んだとても明るい素敵な笑顔でお話しいた頂き、初めてお会いした感じがしない人でした。

西村先生がフラを始めたのは、一九九四年六月、四日市のカルチャーセンターでフラ教室を始めた時からだそうです。フラの一日体験教室で、その優雅な踊りに心をうばわれ、踊り

続けて十七年、現在は、習う身から教える立場になり、小さなフラ・サークルの会主として活動されています。

一九九七年六月、フラを習い始めて3年目、ホノルルのNBCホールで開催されるキングカメハメハ・フラ・コンペティションにハワイのチームとして出場することになり、いきなり「優勝」されました。

そのほか沢山のコンペにトライするチャンスに巡り会いました。

その時から五年間、お世話になった、ファイフロハの和田先生には、教室を辞めた今でも感謝の気持ちをお持

ちだそうです。ふり返れば、すべてがいい思い出として残っているとのことでした。

現在、先生が大切にしているフラ・サークル「プアマリアあかつき」は、四日市のあかつき台にあります。毎週火曜日の午前一〇時からフラレッスンを楽しんでいるそうです。会員の中には八〇代の方もおられて、健康であれば生涯踊れるものなのだと感じしてしまいました。

四日市あさけプラザ文化協会に一昨年から入会して一生懸命に練習しているフラ仲間が「春と秋の文化祭でスポットライトの下で踊ることができとっても幸せ！」と話してくださいました。

文化団体には、縁の下の力持ち的な方々が居て成り立っており、随分お世話になってます。と感謝の言葉をいただきました。

また、七月二十七日(水)夕方六時三〇分から、あさけプラザの中庭で催されるフラコンサート「仲好しの他チームとのコラボをいかにみなさまに喜んで見ていただけるか」をいろいろ考えおられました。

先生には、踊るだけの楽しみではないものがあるようです。それは、フラを通していろいろな方に巡り会うことができ、人生が大きく広がって、本当によかったとお話されています。これぞまさしく「フラは楽し・人生楽し」と言われる先生の生き方なんだと思いました。

(レポーター 中西まさ子)



舞台が終って記念写真(一段目、中央が会主)

インタビュー

シンボルマーク創作

「生涯現役をめざして！」

三重県デザイン協会会員 森 次男



私とシンボルマークデザインの出会いは、1978年に応募した四日市交通安全協会のシンボルマークが最優秀賞となり採用されたことがきっかけとなりました。

これを機に自身のスキルアップを目的に応募したシンボルマークは通産で26点の作品が入賞を果たしました。シンボルマーク創作の魅力は、自己イメージを高め、作った作品が採用されることにより、あらゆる媒体を通じて

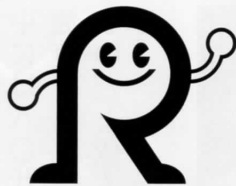
作品がひとり歩きしていくことで、自分自身のデザインに対するバロメーターになることです。

現在はパソコンの普及によりテクニックが優先され、アイデア的にも技法的にも出尽くされた感じがあります。私は限られた平面の中でいかに自己イメージを膨らませるかを頭に描いて創作しています。イメージを膨らませ増幅していくことで作品が除々にシンボライズされ、簡略化されても主催者の意図が作品の中で反映する事ができればと思っています。

このたび満を持して、入賞作品を中心とした個展を開催します。この個展が自身の還暦記念のイベントとなり、また新たなスタートラインとして、生涯現役を目指したいと思っています。

略歴

- 1951 三重県亀山市に生まれる
- 1962 水九印刷株式会社入社 デザイン企画室に配属
- 1970 全国労働衛生週間ポスター金賞
- 1978 四日市交通安全協会シンボルマーク最優秀賞
- 1982 三重県ボランティア基金シンボルマーク特選
- 1986 第42回国民体育大会冬季大会(長野県)シンボルマーク佳作
- 1986 三重県献血推進ポスター最優秀賞
- 1986 桑名市制50周年シンボルマーク最優秀賞
- 1987 ヘルシー埼玉21県民運動シンボルマーク最優秀賞
- 1987 伊勢鉄道社章最優秀賞
- 1987 三重県交通安全シンボルマーク知事賞
- 1987 松阪開府400年まつりシンボルマーク最優秀賞
- 1987 四日市市社会福祉協議会「福祉の店」マスコットキャラクター最優秀賞
- 1987 四日市市同和問題啓発ポスター市長賞
- 1987 水戸市制100周年シンボルマーク優秀賞
- 1987 名古屋市昭和区区制施行50周年シンボルマーク優秀賞
- 1987 三重県水産物消費拡大促進協議会シンボルマーク金賞
- 1988 名古屋市西区区制施行80周年シンボルマーク優秀賞
- 1988 四日市シティーマラソンポスター特選
- 1988 三重カルチュアフェスティバルシンボルマーク最優秀賞
- 1988 三重カルチュアフェスティバルポスター最優秀賞
- 1989 岐阜県阿木川ダムシンボルマーク佳作
- 1989 世界人権宣言40周年記念人権ポスター特別賞
- 1989 上野市制50周年シンボルマーク佳作
- 1990 暴力追放三重県民会議シンボルマーク優秀賞
- 1991 四日市市ごみ減量、資源リサイクルキャラクター特選
- 1991 第17回全国育樹祭シンボルマーク優秀賞
- 1992 三重県農村漁村の日シンボルマーク特選
- 1993 四日市西交通安全協会シンボルマーク最優秀賞
- 1993 広島県ホームヘルパーシンボルマーク入選
- 1993 楠町社会福祉協議会ボランティアマーク最優秀賞
- 2007 四日市市地域防犯協議会シンボルマーク最優秀賞



四日市市ゴミ減量キャラクター
「リサちゃん」



広島県ホームヘルパー
シンボルマーク



ヘルシー埼玉21県民運動
シンボルマーク



水戸市制100周年
シンボルマーク

森次男シンボルマーク展

にちじ 八月三〇日(火)～九月四日(日) 10～17時

〈初日13時～、最終日16時〉

ところ 四日市市文化会館 第3展示室

入場無料

ネイチャーフォト公募写真展を終えて

フォト十彩会員 伊藤洋史

六月十一日から九日間にわたって市立博物館でネイチャーフォト市民公募写真展が開かれました。(フォト十彩風景写真展と併設) 一〇〇点の公募作品が展示され、一八〇〇人からの来場者がありました。会期中開かれた二度のデジカメセミナーも、それぞれ八十人近くの参加者があり、質問など多く出され関心の高さを感しました。デジタルカメラの普及で手軽に、上手に撮れるようになったことが要因ですが、「できればもっと上手に撮りたい」「撮った写真をひとに見てもらいたい」という欲求もまた当然のことです。

応募作品は最終日に風景写真家山下茂樹氏から講評があり、プロの写真家の持つ高い感性での講評も参加者には参考になったようです。四日市の文



化を考えると、四日市に活動拠点を置き、日本全国に作品を発信するプロの力の協力を得ることは大変有意義なことです。今後とも四日市の文化的、質的向上のために市民公募展を続けていきたいと思えます。

教室・研究会のご案内

- 初級→100分/定員8名(3ヶ月分/10,000円)
- 中上級→100分/定員8名(3ヶ月分/10,000円)
- *月1回の勉強会又は撮影実習を実施
- マンツーマン→60分/定員1名(1回/5,000円)
- 研究会会員→年会費/24,000
- 入会金/¥2,000+バッジ¥2,000
- *写真展費用積立/¥500(月)
- *教室会場は写真ギャラリー十彩(近鉄富田駅から送迎有)

会員の特典

- *山下プロが直接ボジの添削指導・アドバイスをします
- *プロ担当(作家専属オペレーター)がプリントをします
- *写真展(四日市、名古屋、京都、大阪、東京)開催しています
- *各種撮影実習会(限定8名様)を多数企画
- *中判カメラを対象とした645研究会に参加できます

会員募集中!

連絡先
三重県四日市市大矢知町1530
tel 059-365-8289

Photo
十彩

山下茂樹 (プロフィール抜粋)

フォト十彩主宰
社団法人日本写真協会会員 日本写真作家協会会員
1947年 三重県四日市市生まれ
1965年 四日市市商業高校卒業
1969年 愛知大学経済学部卒業後サラリーマン生活を送る



2000年 有限会社 オフハウスデザイン「写真企画室」設立
2001年 写真家として活動を始める
コタックフォトサロン/銀座にて個展
Mainland「自然の香り」開催
富士フォトサロン/東京にて個展 富士山「四季彩色」開催
富士フォトサロン/名古屋にて個展 富士山「四季彩色」開催
京セラコンタックスサロン/銀座にて個展 富士山「変幻富士」開催
北海道東地区/北見NHKキャーラリー他、4ヶ所にて個展 富士山「四季彩色」
中部近鉄百貨店 美術画廊にて個展/富士山「変幻富士」
Vol.6アマテラス年鑑(日本芸術出版社)招待作家 掲載
風景写真研究会「フォト十彩」設立
ギャラリー古都(京セラコンタックスサロン京都)にて 山下茂樹と仲間たち「富士山写真展」開催
写真集「富士山の四季」1月 講談社インターナショナル刊
アステラス製薬株式会社 機関紙「Astellas Square」2010~2011表紙作品掲載

第61回 市民芸術文化祭 始まる！

四日市2011アート展に思う

市民芸術祭の事業の1つ「四日市アート展」を、四日市市文化協会の自主事業に位置づけて、今年で7回目の「四日市2011アート展」を開催しました。

市民文化のさらなる向上を願い、「作家、鑑賞者、主催者が協力して創り上げる展覧会」をモットーに、従来からの出展ジャンルをひろげ、展覧会方法に工夫を加えるなどの視点で、地元作家の作品を大いに鑑賞する機会として企画、総合美術展にふさわしい優れた作品を展示、陳列しました。

作品の中には日展、二科展、県展、市展、全国公募展などで入選、入賞作品が多くあり、作品をご堪能いただくと共に、作品に込められた作者の情熱に想いをめぐらせ、作者による作品解説を聞くことのできる展覧会として開催できました。

今後、さらに多くの市民のみ

なさんにご来場いただき、当展覧会が継続発展していくために、若い力を積極的に取り入れ、新鮮な感覚が期待されます。またみなさんと共に、次代を継ぐ若者、子どもたちへの育成支援は欠かすことのできない課題とあります。

そのためにいくつかの改革を提起しました。

一、出展作品が
少ない（総
数が90点前
後）。各ジャン
ルとも、幅
広い会派の
作者に出品
を依頼（特に
絵画、書道、
彫刻、写真、
工芸）。

一、出展作者に変



アートアドバイザー赤川一博さんの解説を聴く



実行委員が作成した入口のモニュメント

化が少ない（継続の作者が出品）。点数アップを図る。一、展示、陳列方法に変化・工夫が少ない。展示スペースが狭いので、大幅な改善、点数の増加が難しい。思いついて会期を延長、会場も文化会館以外も考慮、展示会場を分散したりジャンル別にした開催を企画す

る。一、基本理念は守りながら、作品のジャンルの広がりをどうするか。出展者が特定の会派に集中しないように、マンネリ化するのを防ぐ手だてが必要。一、各ジャンルごとの実行委員による推薦要領（方法）を見直す。（加藤 武）

第61回 市民芸術文化祭

第61回目の『日本舞踊まつり』を迎えて



「第60回 日本舞踊まつり」にて

今年も先日、文化協会舞踊I部門としての恒例の舞台『日本舞踊まつり』のプログラムを会員の皆様と共に作成致しました。

伝統芸能の一翼を担い、三味線、笛、鼓、琴などの邦楽にのせて、四季の様子や花鳥風月また江戸の風物など、今年も盛り沢山の番組が出揃いました。

踊りの内容は様々で舞台を努める姿は幼い子供さんもベテランのみなさんもとて美しいものです。この日の為にお稽古に励んだことへのご褒美でしょう。

さて、まだ戦後という言葉が身



「第28回 三重県邦舞会」にて

近であった頃から西川司女師（前部門長）はじめ赤堀つる昭師（現部門長）など長きに及んで指導して下さった先生方、それに続けとばかりに日々の精進と弛まぬ努力

を自らに、お弟子へと伝承し続ける皆さん、そして観客の皆様応援を頂いて、市民文化祭第1回から参加して『第61回目』が10月10日午後一時より文化会館第2ホールにて華やかに幕を開けます。継続は力であると実感致しております。華麗な競演をお楽しみ下さい。

なお、チケットのプレゼントも受付けます。市広報をご覧いただくか、左記までご連絡ください。

（西川保蔵）

日本舞踊まつりのプレゼントチケット

にちじ 2011年10月10日(月・祝) 13時開演
 ところ 四日市市文化会館 第2ホール
 内容 長唄、大和楽、常磐津、清元、一中などのプログラムで8社中の競演です。
 入場料 500円(文化会館にて発売)
 募集人員 50人(抽選にて) 締切り 9月10日(消印有効)

申し込み 往復はがきに「舞踊まつりチケット希望」と書いて住所、名前、電話番号をご連絡ください(各必要事項を書いていただければ1枚に4人まで記入可)。ご住所は返信用にも書いてください。

〒510-0057 昌栄町21-10 文化協会「舞踊まつり」係あて。
 お問い合わせ 059-321-3777(赤堀)

第5回四日市音楽祭パートⅡ

「四日市交響楽団」もつと気軽にオーケストラ

にちじ 10月16日(日) 13時30分開演

ところ 市文化会館 第一ホール

入場料 一般 一〇〇〇円(高校生以下同伴一人可)

小・高校生 五〇〇円

去る4月12日に文化庁長官の近藤誠一氏が、次のようなコメントを発表されました。「東日本大震災によつて、被災地以外の地域においても伝統的な行事や文化芸術活動が縮小されるなどの動きがあるが、文化芸術は本来、私たちの心に安らぎと力を与え、地域の絆を強め、明日への希望を与えてくれるものである。その縮小は経済社会全体の活力によつて好ましいものではない。全国各地の活発な文化芸術活動によつて、国民ひとりひとりが活力を取り戻すことが、日本全体の元気を復活させるために必要なことであり、被災された方々に対する一層の支援につなげるものと考えます。」このコメントが後押ししてく

れたように、去る6月5日に開催した第33回定期演奏

会には、予想以上の入場者があるなど、多くの方々の温かいご支援に勇気付けられたところでした。

さて、前述が長くなりましたが、来たる10月16日(日)午後2時30分開演の「もつと気軽にオーケストラ」演奏会は、日ごろクラシック音楽に馴染みのない方々など、幅広い年齢の方々に、オーケストラの生の音を楽しみながら聴いていただく企画です。

特に、オーケストラストーリーズ」となりのトトロ」は、誰もが知る映画「となりのトトロ」の音楽をオーケストラの演奏とナレーションで表現します。又、オペラアリアや指揮者体験等もあるなど、是非ともご来場いただければ幸いです。

(団長 水谷 達)

第10回記念 四日市短詩型文学祭

講演「金子みすゞ記念館館長 矢崎節夫さん」

11月2日(木)13時30分 市文化会館第3ホール

四日市市民文化祭の催しの一つとして、四日市短詩型文学祭が初めて開催されたのは平成十四年の十月。短歌、俳句、川柳、現代詩、連句の、日頃はまるで交流のない五つのジャンルが一同に会してのイベントで、しかも所属結社グループ関係なし、全市民を対象とした、まさに「祭」にふさわしい試みとして、スタート時より多くの短詩型文学好きの関心を集めました。途中、平成十八年、第五回から、四日市出身の直木賞作家、伊藤桂一氏の名を冠した大賞が創設され、さらに一層の盛り上がりを見せております。また、年々に、四日市の名産品その他にちなんだ優秀作品を表彰、寄贈された品々が特別賞として贈呈される、という楽しみもあります。

こうして、今年も記念すべき第十回を迎えま

すが、その特別企画として「金子みすゞ記念館」館長の矢崎節夫先生をお招きし、「金子みすゞの世界」と題するご講演いただくことに致しました。詳細については市の広報などで別途ご案内します。(西田青沙)

伊藤桂「オータムセミナー」

「コンサート&講演」のご案内

にちじ 2011年9月19日(月・祝) 13時30分

ところ 四日市市文化会館第3ホール

内容 音楽と文学の出会い

第1部 「コンサート」 合唱団「うたおに」 出演

・スキヤキ、ふるさと、砂山など懐かしい歌

・混声合唱曲「水車」、男声合唱曲「戦旅」

伊藤桂 作詩 高田三郎 作曲

第2部 伊藤桂 講演会 演題「文学と趣味」

参加費(資料代ほか) 1000円(当日1200円)

定員 100人(先着順)

締切り 8月30日消印有効

お申込み はがきに伊藤桂「セミナー希望」と書いて、住所・名前、電話番号をご連ください。(各

必要事項を書いていただければ一枚に何人でも記入可)

〒5100057 島本町2-1-10

文化協会「伊藤桂「セミナー」係あて。

お問い合わせ 05-06326-1970(志水)

平成二十三年七月～平成二十三年十二月 文化協会の加盟団体・イベントのご案内

○第十六回 小原芳美バレエスタジオ発表会

「くるみ割り人形」全幕

日時 七月十七日(日) 開演十六時
会場 四日市市文化会館第一ホール
入場料 一五〇〇円

お問い合わせ 〇五九―三二二―四七八二(赤瀬)

○混声合唱団ヴォーチェ 第五回定期演奏会

日時 七月二十四日(日) 開演十四時
会場 四日市市文化会館第二ホール
入場料 大人一〇〇〇円
高校生以下五〇〇円
(いずれも当日も)

お問い合わせ 〇五九―三五五―七八一八(小岐須)

○第四十五回記念マリンバフェスティバル

日時 八月七日(日) 開演十四時
会場 四日市市文化会館第二ホール
入場料 一〇〇〇円(当日一三〇〇円)
お問い合わせ 〇五九―三四六―四一四一(田嶋)

○第二回 垣根のない音楽のコラボレーション

「地域にねぎしたコンサート」
日時 九月十一日(日)開演十三時

会場 四日市市楠福祉会館

入場無料

お問い合わせ 〇五九―三四七―一三五二(西尾)

○池坊四日市支部 支部花展

「あなたに伝えたい心」

日時 一〇月二十九日(土)三十日(日)
開演一〇～十六時

会場 四日市商工会議所大ホール

入場無料

お問い合わせ 〇五九―三五三―〇九九〇(岡島)

○民踊舞踊会

日時 一〇月三十日(日) 開演十一時

会場 四日市市文化会館第二ホール入場無料

お問い合わせ 〇五九―三五三―七八六〇(内田)

○女声合唱 Luce 第一回演奏会

日時 十一月二十三日(水・祝)
開演十三時三〇分

会場 四日市市文化会館第二ホール

入場料 大人八〇〇円(当日も)

お問い合わせ 〇九〇―二九三七―七三二四(南川)

短 信 志水雅明

昨年11月、皆様のお蔭により、「地域文化功労者」として文部科学大臣表彰を受けましたが、その後執筆・出版関係の仕事が多く無い込んで来ています。

今年の3月11日は未曾有の大地震、東日本大震災が発生して、いまだに連日の如くその後の状況が報道されていますが、その翌日の3月12日が堀本素秋氏(本名博)の周忌でした。

95歳で没した素秋氏の「周忌を修して遺族より委嘱され、遺稿集『堀本素秋句集』を編集・発行して多くの方から種々のご意見、ご感想をいただいています。最近では清水信氏による書評(『XYZ』平成23年5月)の他、「中部の文芸」(平成23年6月23日付「中日新聞」)では加藤かな文氏より「60年を経て輝き新鮮」と題して大きく散り上げられました。

プレゼント

「堀本素秋句集」を先着30名の方に進呈します。

ご希望の方は、一〇〇円切手一枚を同封して文化協会事務局へお申し込み下さい。

一方では、一昨年の四日市市文化功労者表彰を受けたハローモニカの黒川裕規氏の自分史「黒川裕規が語る ハローモニカ人生を歩み来て」の加筆・編集も依頼され、B6版五〇頁の本が7月末には発行される見通しになっています。これまでの文化功労者の中では唯の自分史作りだと思われませんが、編集子としては関係写真も多用しながら「四日市現代文化史」にもなるように配慮したつもりです。

また、名古屋の樹林舎から10月に発行予定のアルバム集「四日市の昭和」では「文学者・文学作品から見た四日市」と題して各章のコラムに執筆をする予定です。恐らく初めての「四日市文学史」になると思っています。是非とも二読の上、ご意見・ご感想をお寄せください。

◎平素のあたたかいご支援に感謝申し上げます。

賛助会員（個人）50音順・敬称略

お名前
一見政幸
小林博次
佐々木龍夫
杉浦貴巳
杉之内昭二
田中俊行
津田健児
豊田政典
中川正春
永田正巳
水野幹郎
毛利彰男
森満郎
若菜淳二

賛助会員（法人）順不同・敬称略

法人名	代表者
東海出版(有)	稗田多美子
水九印刷(株)	水谷 慎志
(株)シー・ティ・ワイ	塩冶 憲司
日本トランスシティ(株)	小林 長久
四日市都ホテル	山川 有一
STHO STUDIO	佐藤 敏明
(学法) 富田文化学園	中村 哲也
アビオン(株)	堀木 俊男
(有)グローバルステージ	角野 明則
(株)第一楽器	服部 勝彦
(株)レイ・ステージ桑名	加藤 武夫

～平成23年度四日市市文化協会役員～

顧問	森 紀元
	佐々木龍夫
名誉会長	木村 道山
理事長（事務局長兼務）	西村 邦彦
副理事長（文化交流・渉外）	芝田 尚輝
副理事長（法人化・四日市音楽祭）	水谷 達
会計監査	一木 勝弘
	内田 量子

事務局体制

事務局次長（事業部）	花井 高峰
…「四日市アート展」委員長	
事務局次長（事業部）	西田 青沙
…短詩型文学祭委員長	
事務局次長（サポート部）	奥山 秀男
…学校訪問、新春の集いほか	
事務局次長（事務副局長）	白井 良昭
…市民芸術文化祭ほか事業	
会 計（事務副局長）	加藤えつ子
事務局員	清水 暁美（パッション）
	西川 保歳（伝統文化）
	伊藤 洋史（ホームページ）
	南郷 卓宏
	中西まさ子
	鈴木 次男（文化賞：仮称）

《編集後記》

☆原稿の校正をしていて、「花を生ける」と「花を活ける」どちらが正しいのか迷った。今は原稿を書くのにパソコンを使うが、筆記用具としては実に便利で、書けない漢字も正しく書出し、文章の並べ替えもあつという間だ。しかし、いざ手書きすると、簡単な漢字が書けない時がある。これではいけないと思いつつ、携帯のメールで調べている。「生ける」と「活ける」は、どちらも正しいのだからだ。もちろんパソコンで調べた。

（石井 亨）

パッション第四十五号

- 発行 平成23年7月15日
- 発行人 西村 邦彦
- 編集 文化協会広報部会
- 石井 亨 加藤 武
- 清水 暁美 中西まさ子
- （オプザーバー）
- 石松 延 九鬼多賀子
- 発行所 四日市市文化協会
- 〒五一〇—〇〇五七
- 四日市市庄栄町二—一〇
- TEL・FAX
- 〇五九（三五二）三七二九

四日市市文化協会様御用達 パネル用“紙看板”
フルカラーインクジェット大判プリント

900x1800mm 6,000円～ 耐久クロス地、ターポリン地 取扱い
☎ (059)353-3885

株式
会社

紺文旗店

<http://www.konbun.com>

E-Mail info@konbun.com

〒510-0075 四日市市安島2-4-14

TEL 059-353-3885 FAX059-353-2417

小窓の演出から、
増改築まで

総合インテリア



株式会社 片岡

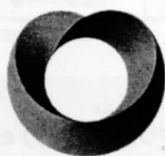
四日市市日永東 3丁目-8-22

TEL (059)-346-7933(代)

FAX (059)-346-7913

E-mail: K-Kataoka@mx.baycity.ne.jp

共に創る。共に生きる。



DaiwaHouse®

大和ハウスクループ

大和ハウス工業株式会社

四日市支店

四日市市ときわ1丁目7-14 〒510-0834

TEL 059-351-1366 FAX 059-353-2939

水九印刷にお任せください!

まだ間に合

困ったけど

この印刷物はどこの業社?
ホームページの修正はどこの業社?

どうすれば

名刺のロゴとホームページのロゴが違う!

わからない

発送はどうしよう?

できる?

こうしたい

コスト 手間

水九印刷が解決します!!

手間が省けて
手配スムーズ

ひとつにまとめて
コストダウン!
情報も守れます。

デザインを統一して
ブランディング

印刷

- ・名刺・封筒・伝票
- ・カタログ・ポスター・チラシ etc.



WEB

- ・Webサイト制作
- ・ホスティング・CMS etc.



デジタルサイネージ

デジタルサイネージとは?

スクロールする静止画、動画、フラッシュアニメーションによる告知・宣伝が出来ます。画面に変化を与えることで今までのポスターに比べ視認効果が格段に向上します。

ループ再生

ノベルティ・看板

- ・オリジナルアイテム
- ・大判カラープリンター出力 etc.

